



Title	特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 : Humanitarian Medical Assistance : HuMA
Author(s)	高田, 洋介
Citation	目で見るWHO. 2024, 88, p. 16-17
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97183
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

特定非営利活動法人 災害人道医療支援会 Humanitarian Medical Assistance: HuMA



特定非営利活動法人 災害人道医療支援会(HuMA) 理事

高田 洋介

兵庫県立大学看護学部卒業、東京医科歯科大学大学院修了 医学博士。看護師としてHuMA創設時から参画し、フィリピンやパキスタンなどで緊急医療支援活動に従事。日本赤十字広島看護大学で講師として教鞭をとりながら、2022年から理事として活動。

HuMA の特徴

災害人道医療支援会（Humanitarian Medical Assistance: HuMA）は通称ヒューマと呼ばれ、2002年に国際緊急援助隊医療チームの中心的メンバーによって設立された国際医療 NGO です。現在、甲斐達朗理事長の下、主に災害医療支援を行っています。国際緊急援助隊医療チームは1979年のカンボジア難民支援を機に1982年に医療従事者をボランティア登録して、海外で起こった災害に派遣する日本政府の医療チームとして組織化されましたが、外交的要素が絡み、現在は難民支援には派遣することができない政治的な制約があります。こうしたジレンマを解決したいという思いがHuMA設立の背景にあります。HuMA会員の多くは医療従事者で、平時は救命救急センターなどで勤務する現役の救急医や看護師が多いのが特徴です。会員数

は約430名の小規模な NGO ですが、DMAT や国際緊急援助隊医療チームにも登録し、さらにインストラクターや検討委員会委員など政府医療チームの中心的な役割を担っている会員も多く、小規模でありながら、国際経験も豊富で国内外に貴重な人脈をもっていることがHuMAの強みです。被災地では地元のニーズに柔軟に対応する、小回りが利く草の根的な活動もしますが、活動調整本部をサポートする支援者支援も行います。

20年間の活動紹介

HuMAは2002年の夏にデビューし、すぐにジャパン・プラットフォームの加盟団体となりました。その冬にアメリカがイラクに対して武力攻撃をする兆候が出始め、2003年に同じく傘下のピースウィンズ・ジャパンやAAR Japan（難民を助ける会）、BHNテレコム支援協議会と連携して、開戦前にイラクとヨルダ

ンの国境に医療を含めた難民を受け入れる体制を整え、医療が必要な難民に医療支援を行いました。これが最初の支援活動となり、2023年までに37の事業を実施してきました。これらの活動が評価され、HuMAは世界災害救急医学会(WADEM)においてAward for Excellence in Disaster Managementを受賞しました。

SPEED から MDS へ

HuMAは2009年、2012年、2013年とフィリピンでの台風災害に対する医療支援を行いました。フィリピンは7,641の島々で構成され、台風が通過するとその被害は広範囲になります。そのため政府でも被害の全容を把握するには時間がかかります。HuMAは他国での支援をする際と同様に、支援活動を開始する際には、丁寧にかつ迅速にニーズアセスメントを行い、支援の重複を避け、支援が届いていない地域を明らかにし、



写真1 2015年ネパール地震での診察風景



写真2 2017年ミャンマー避難民医療支援での診察風景



写真3 2024年能登地震 集落の訪問調査



写真4 2024年能登地震での産科病棟支援

支援活動を行ってきました。また地元
に寄り添った支援の一つとして、地元が
使用する様式で報告することを行いました。
フィリピンでは、Surveillance in Post
Extreme Emergencies and Disasters
(SPEED) という症候群サーベイランス
が災害時の診療活動の中で活用されてい
ました。HuMAはフィリピンでの支援
活動を通じてSPEEDに対応した診療記
録を開発し、その日報をフィリピン保健
省に報告してきました。この経験は後に、
国際緊急援助隊が使用する電子カルテで
JDR-SPEEDとなり、そこからWHOが
医療チームの標準報告様式として定めた
Minimum Data Set(MDS)に発展しま
した。

国内での支援活動

近年は、国内での災害対応も増えてお
り、2018年西日本豪雨災害(岡山)、
2019年九州北部豪雨災害(佐賀)、
2019年台風15号(千葉)、台風19号
(長野)、2020年熊本豪雨災害(熊本)
に医療チームを派遣し巡回診療の展開、
夜間診療所の運営、健康相談、避難所で

の感染症対策、地元の医療機関で休息が
取れていない医療従事者のレスパイト
(代わりに診療や病棟勤務を行う)を行
ったりしました。2024年1月現在、能
登地震で最も被害が深刻な珠洲市を中
心に市内小学校に設置された避難所での救
護所の運営や巡回診療、七尾市の総合病
院での産科支援を地元医療従事者や各団
体と連携して展開しています。

2019年より流行した新型コロナウイ
ルス感染症対応では、大阪コロナ重症セ
ンターやコロナ入院待機ステーションに
医療従事者を派遣し、重症患者へ治療や
看護などを実施しました。またクラスター
が発生した利尻島へも看護師・介護ス
タッフを派遣しました。この他に、介護
福祉施設を対象とした、感染対策オンラ
イン研修を提供したりもしました。

今後の展望

HuMAは医療を専門とするNGOとし
て、WHOの緊急医療チーム
(Emergency Medical Team; EMT)の
国際認証の取得を目指しています。国際
的な潮流として、支援を行う医療チーム

は高い自己完結能力を備えていることが
求められており、それは国際基準として
示され、受援国はWHOの認証を受け
たEMTのみを受け入れる方針を打ち出
している国もあります。そのため
HuMAは海外の災害に対しても支援で
きるように、WHOでの認証手続きを開
始しております。しかし、資器材の整備
や人員の確保、組織としての資金力には
まだまだ課題があります。日本で最初に
WHO-EMTとして認証を受けるNGO
になるためにも、皆さまのご支援をいた
だければ幸いです。



HuMAホームページのQRコード